

# 厚生労働省のデータに基づく 転倒災害の分析

2022年8月14日

労働安全・衛生コンサルタント

土方伸一

# 実施したこと

- 目的

厚生労働省が公表しているデータをもとに、転倒災害の実態を明らかにし、労働災害防止対策を考えることを目的とした。

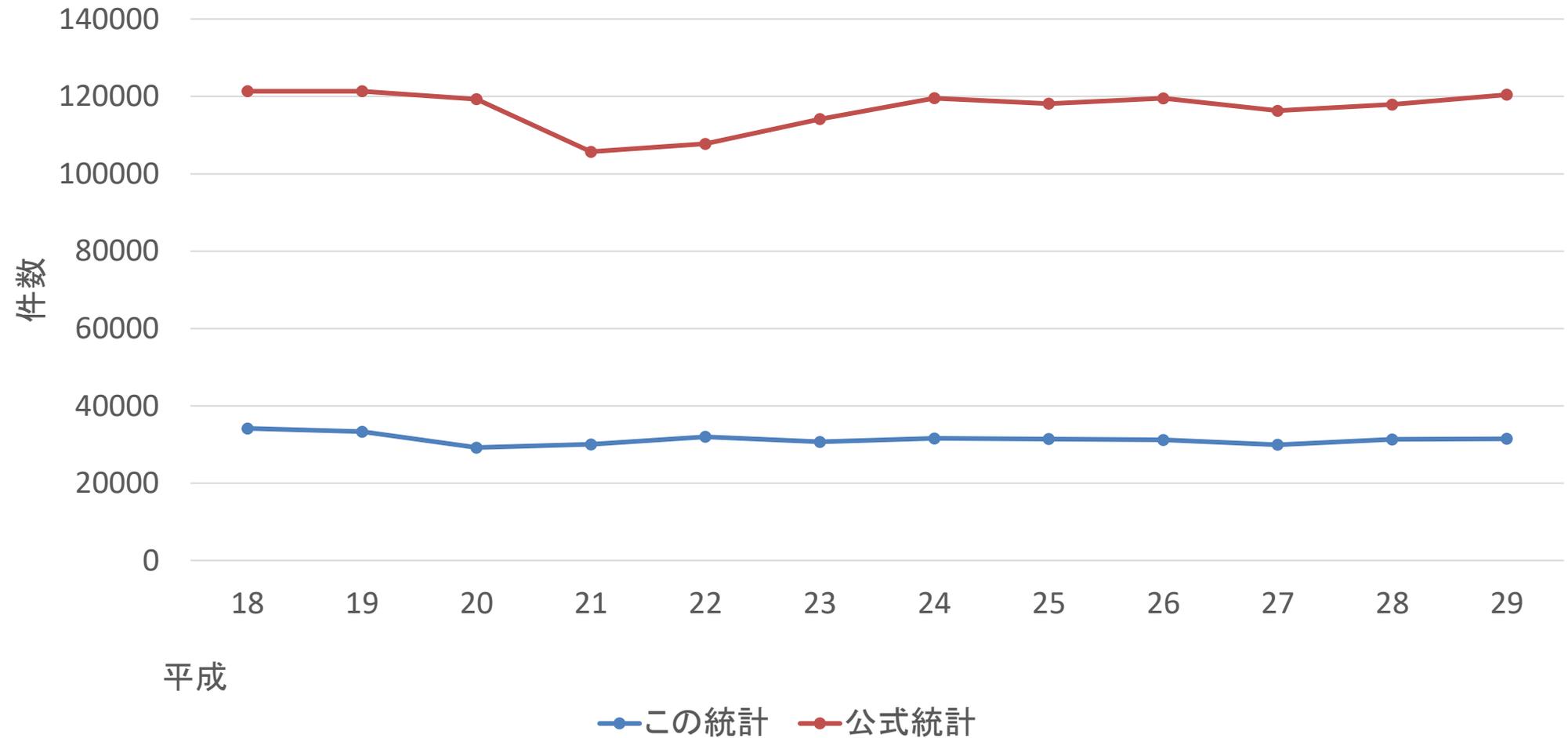
- 使用したデータ

厚生労働省「職場のあんぜんサイト」で公表されている平成18年～平成29年までの休業4日以上の労働災害のデータ（実数の1/4程度を抽出）

## 実施したこと

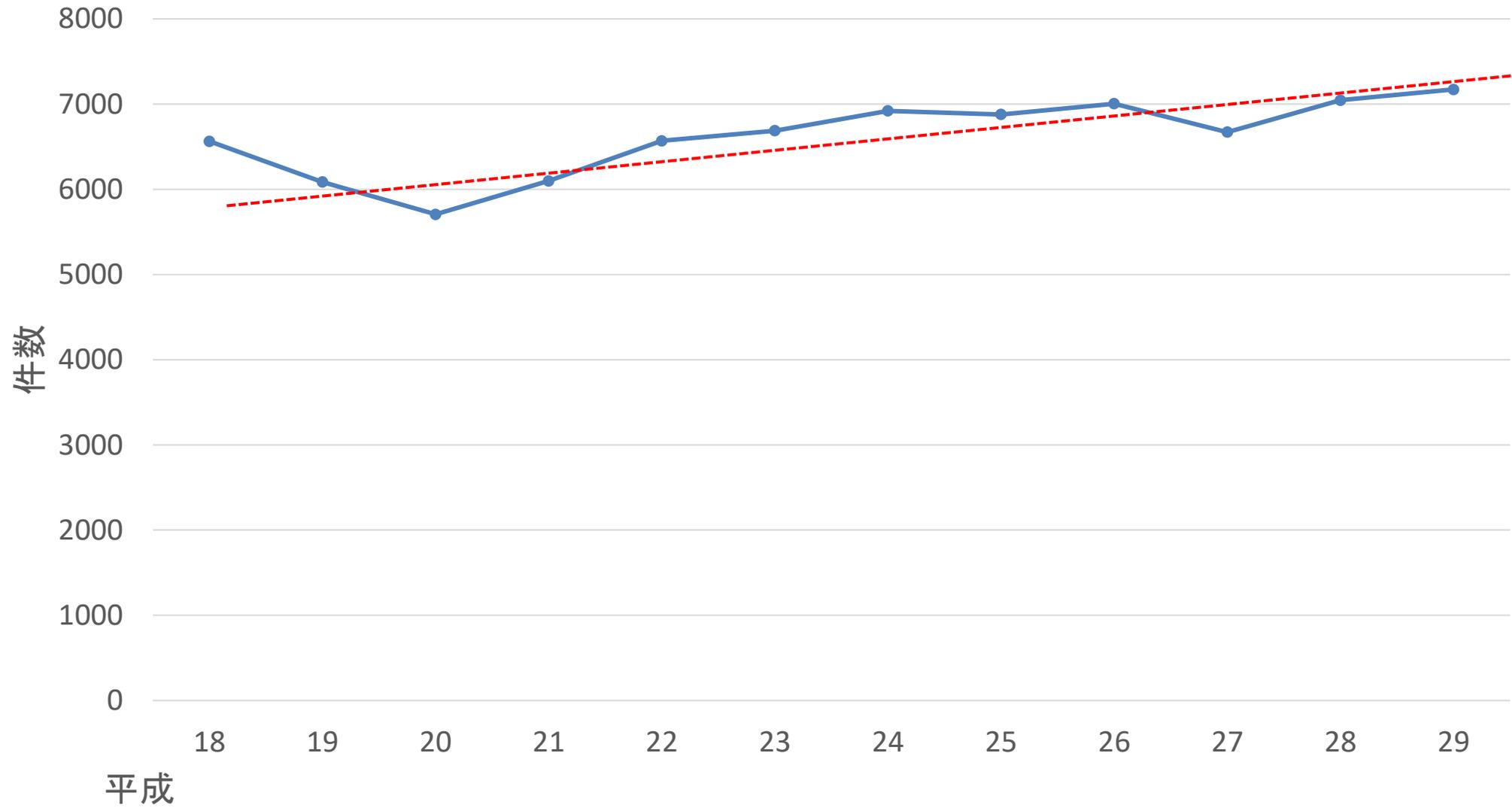
- 掲載されているExcelデータを取り込み、Accessのデータに変換する。
- 12年分のデータを一つのテーブル（表）にまとめる。
- 全データのうち、転倒災害（事故の型別：2）のみのテーブルを作る。
- データ中の「災害状況」に記載されている語句（滑り、つまずき等）の語句でフィルターをかけ、転倒災害を、1 滑り、2 つまずき……等に分類した。
- データ中の業種、年齢等と併せて、年別、月別等の分析を行い、Excel の表で表した。

## h18-h29労働災害の推移

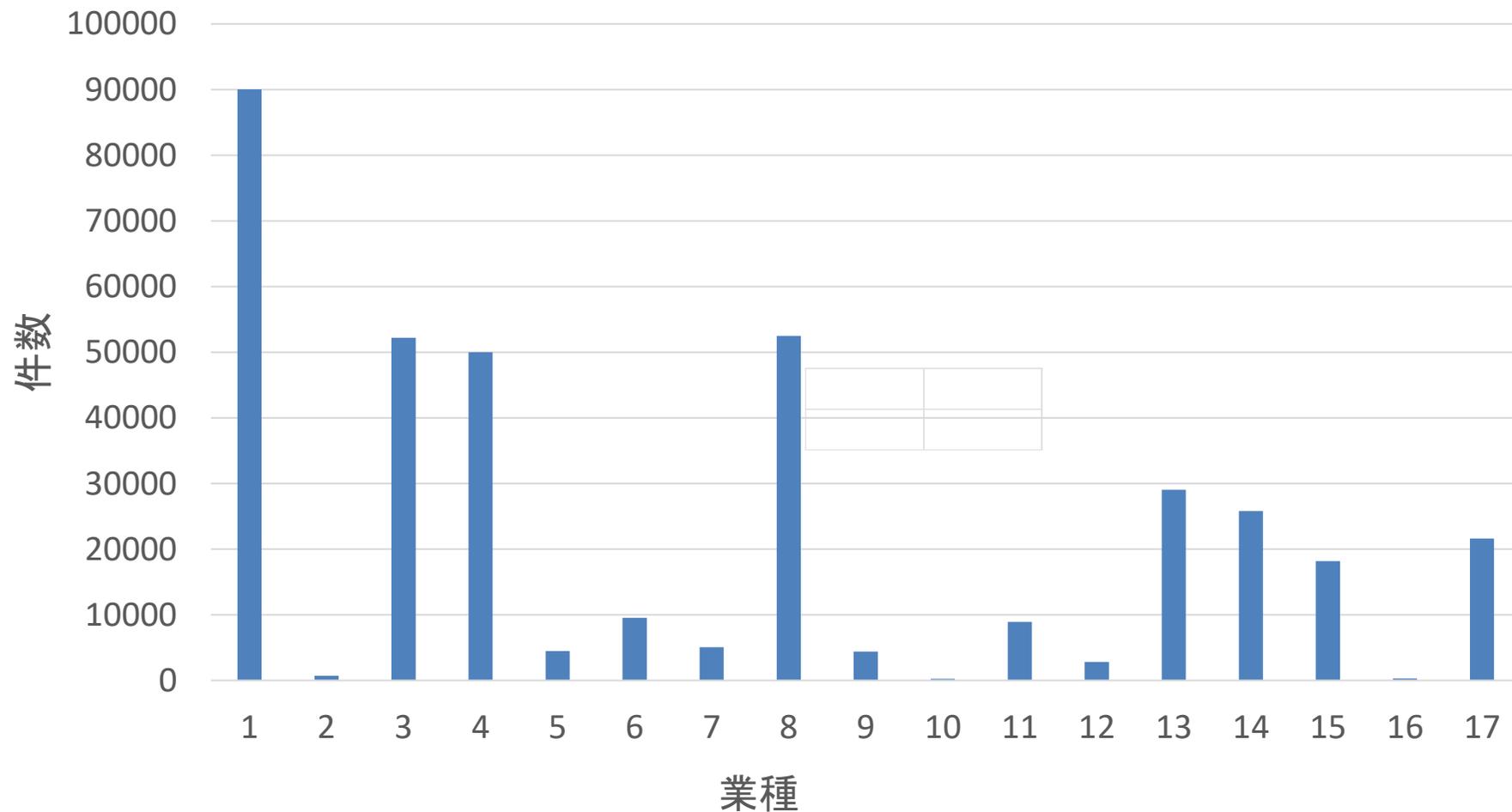


公式統計：厚生労働省が発表している休業4日以上の労働災害統計

# 転倒災害の推移



## 業種別労働災害発生状況(大分類)



1 製造業

3 建設業

4 運輸交通業

8 商業

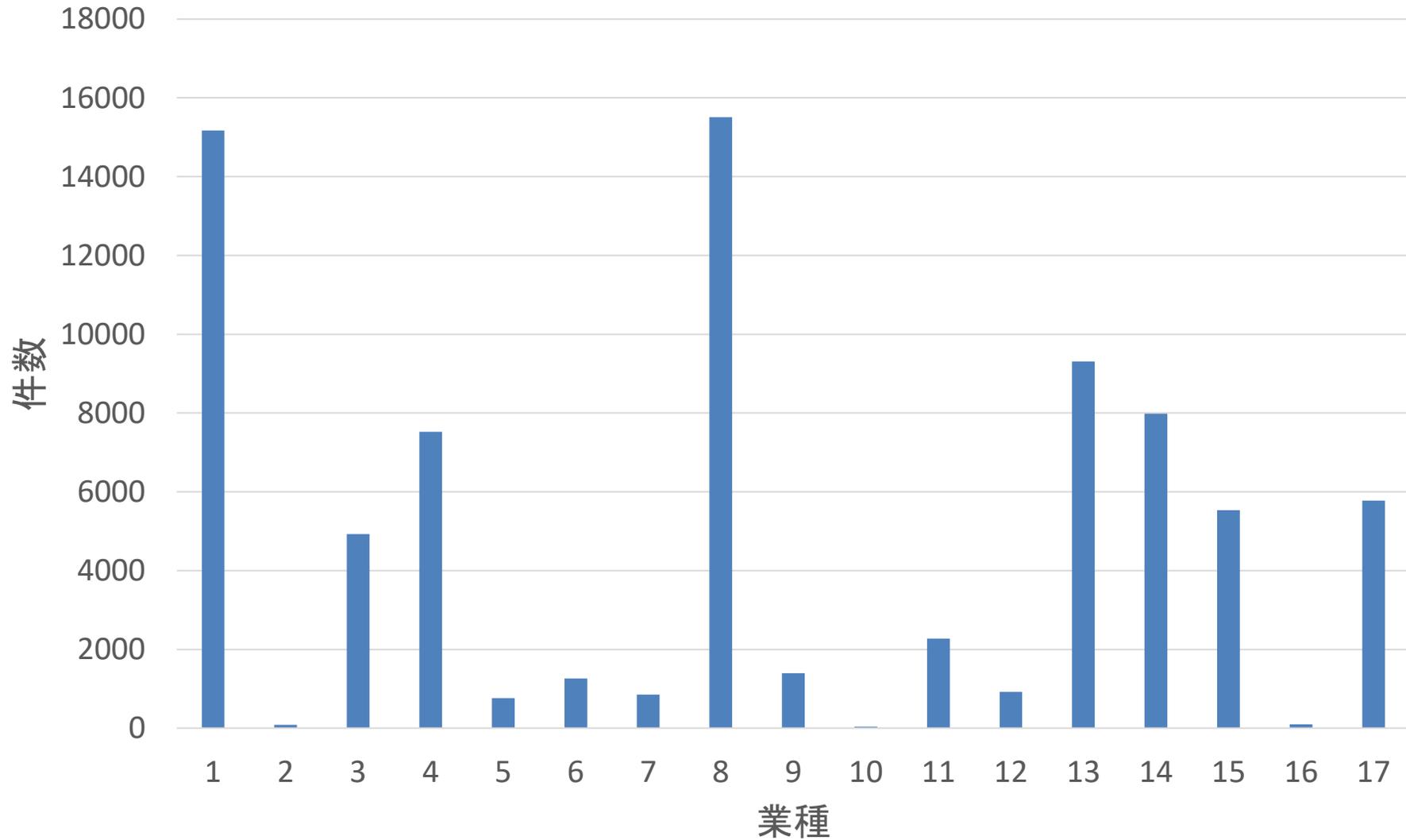
13 保健衛生業

14 接客娯楽業

15 清掃・と畜業

17 その他の事業

# 転倒災害発生状況(業種:大分類)



**1 製造業**

3 建設業

4 運輸交通業

8 商業

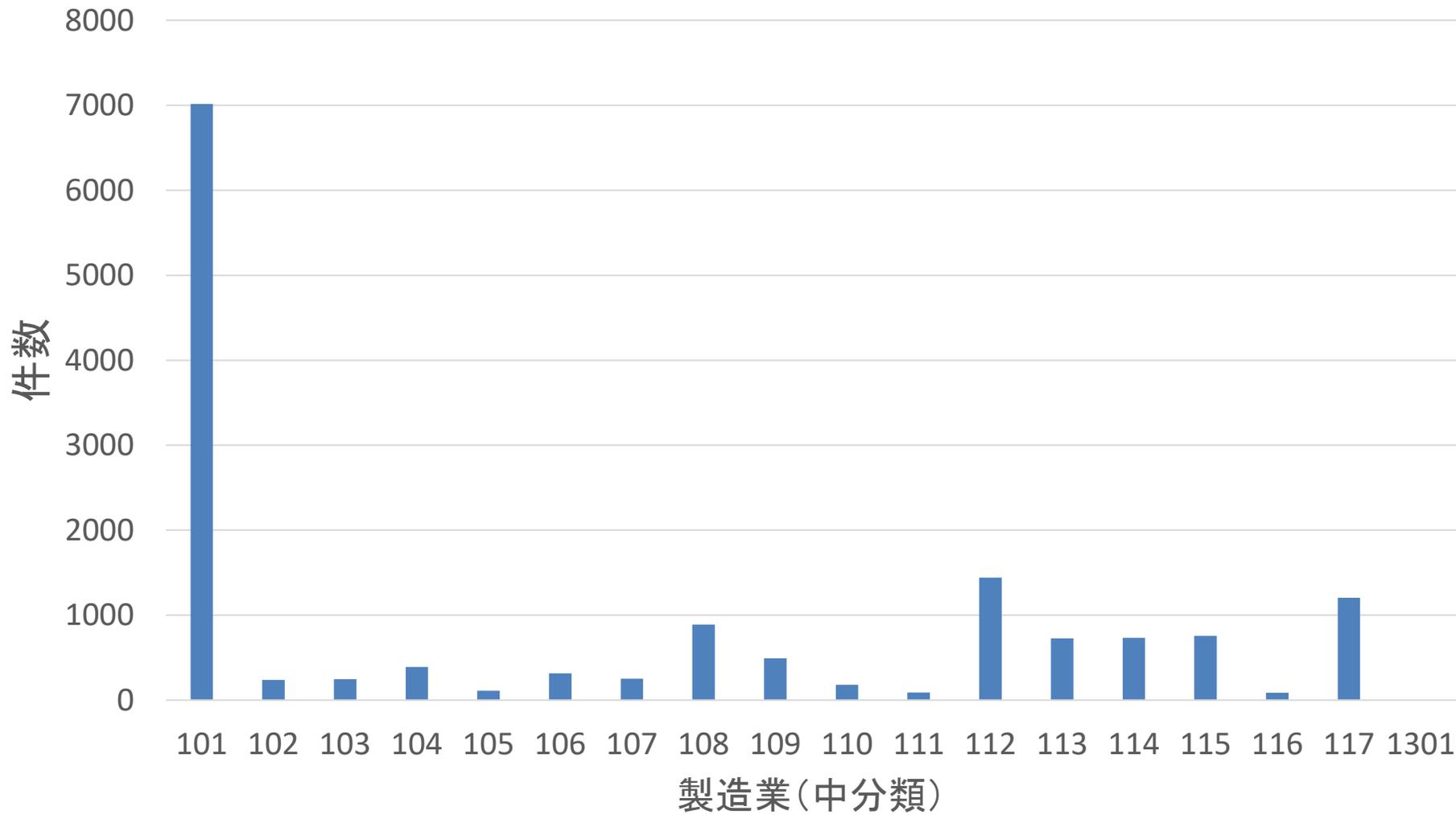
13 保健衛生業

14 接客娯楽業

15 清掃・と畜業

17 その他の事業

## 転倒災害発生状況(製造業・中分類)



101 食料品

108 化学工業

112 金属製品

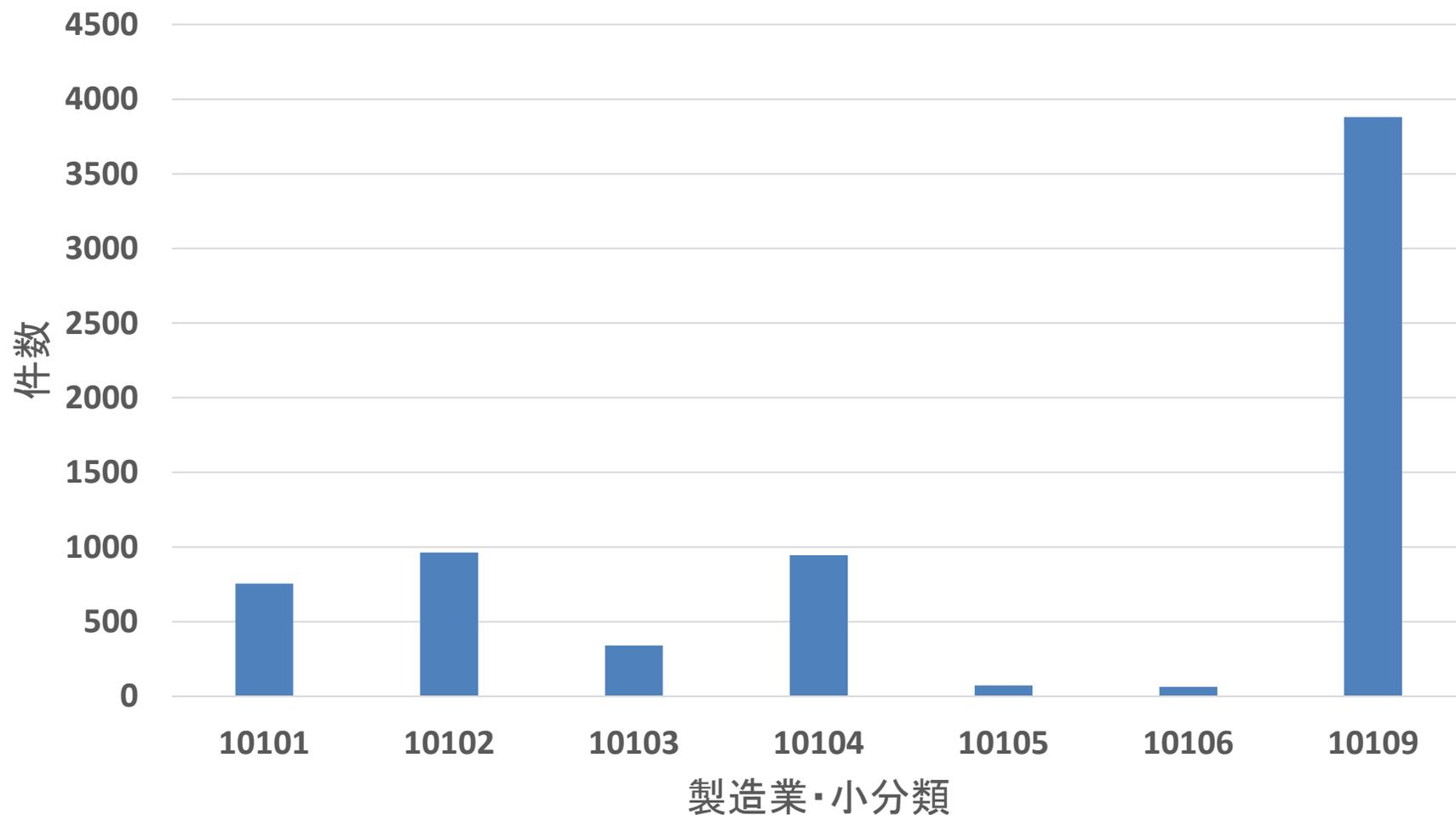
113 一般機械器具

114 電気機械器具

115 輸送用機械器具

117 その他の製造

## 転倒災害発生状況(製造業・小分類)



**10101** 肉・乳製品

10102 水産食料品

10103 農産食料品

10104 パン・菓子製造

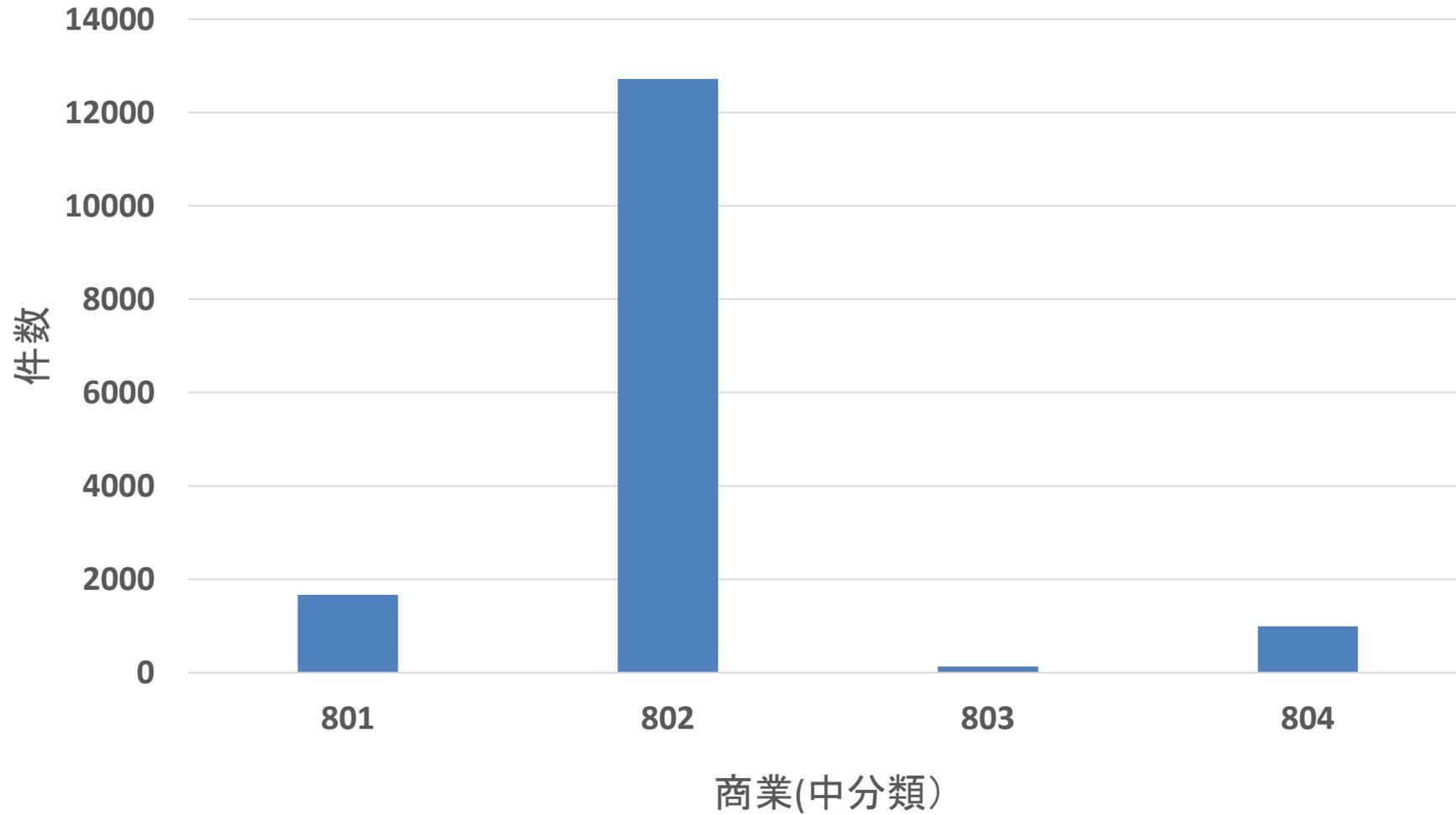
10105 酒製造

10106 飲料製造

10109 その他の食料品

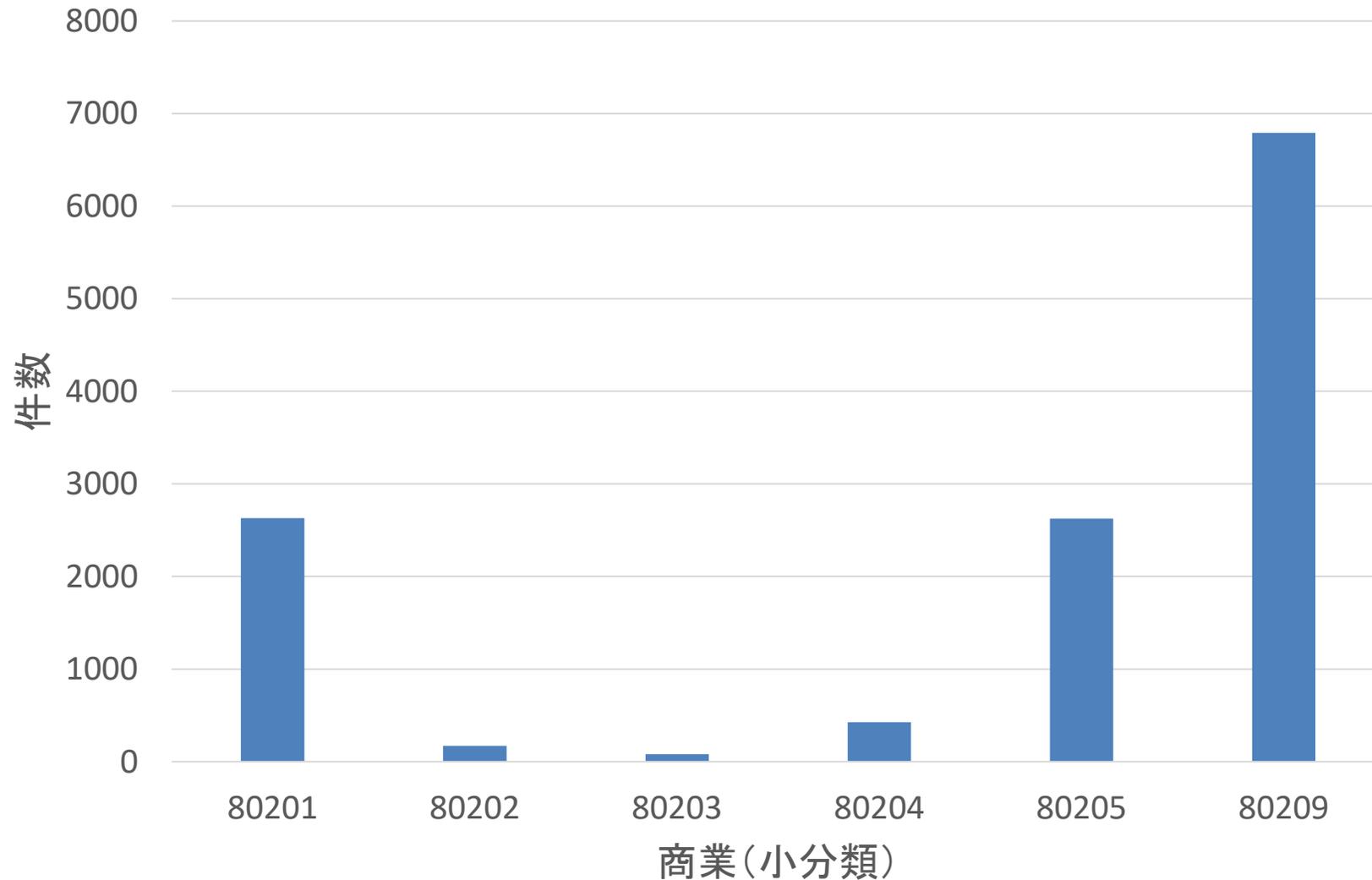
※ 「その他の食料品」には、総菜、弁当を製造する事業が含まれる。

## 業種別発生状況(商業・中分類)



801	卸売業
802	小売業
803	理美容業
804	その他の商業

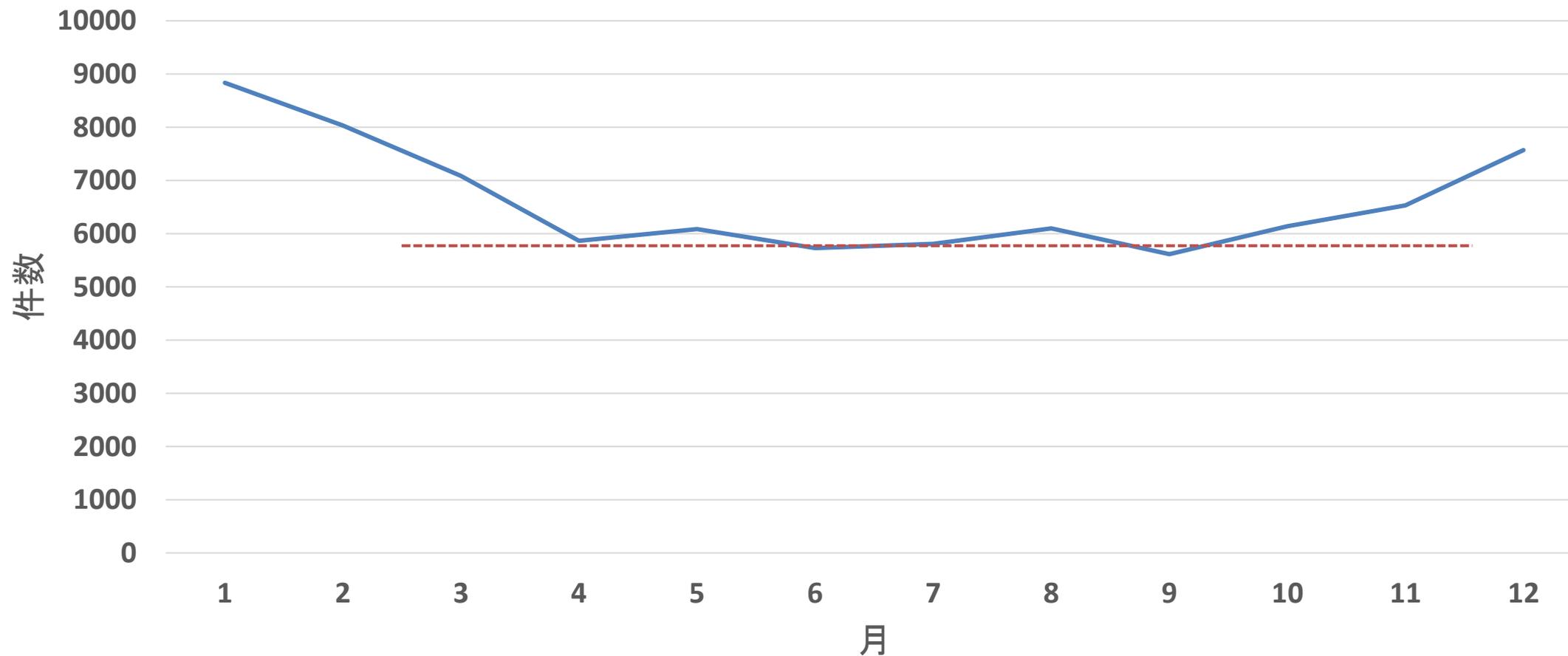
## 業種別転倒災害発生状況(商業・小分類)



<b>80201</b>	<b>各種商品小売業</b>
80202	自動車小売業
80203	家具等小売業
80204	燃料小売業
80205	新聞販売業
80209	その他の小売

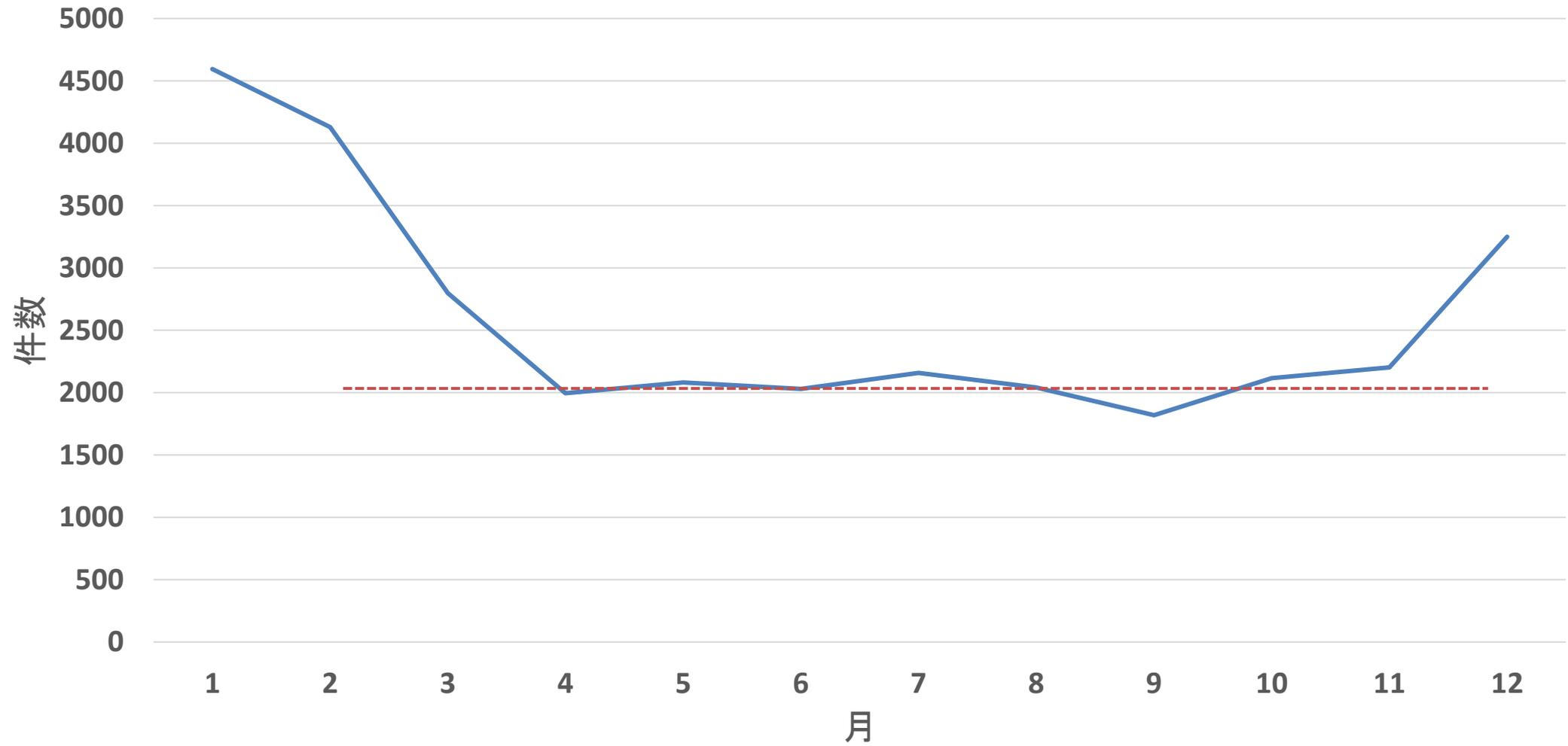
※ 「その他の小売業」には、食料品店、食品スーパーなどがある。

## 月別転倒災害発生状況(h18-h29の合計)

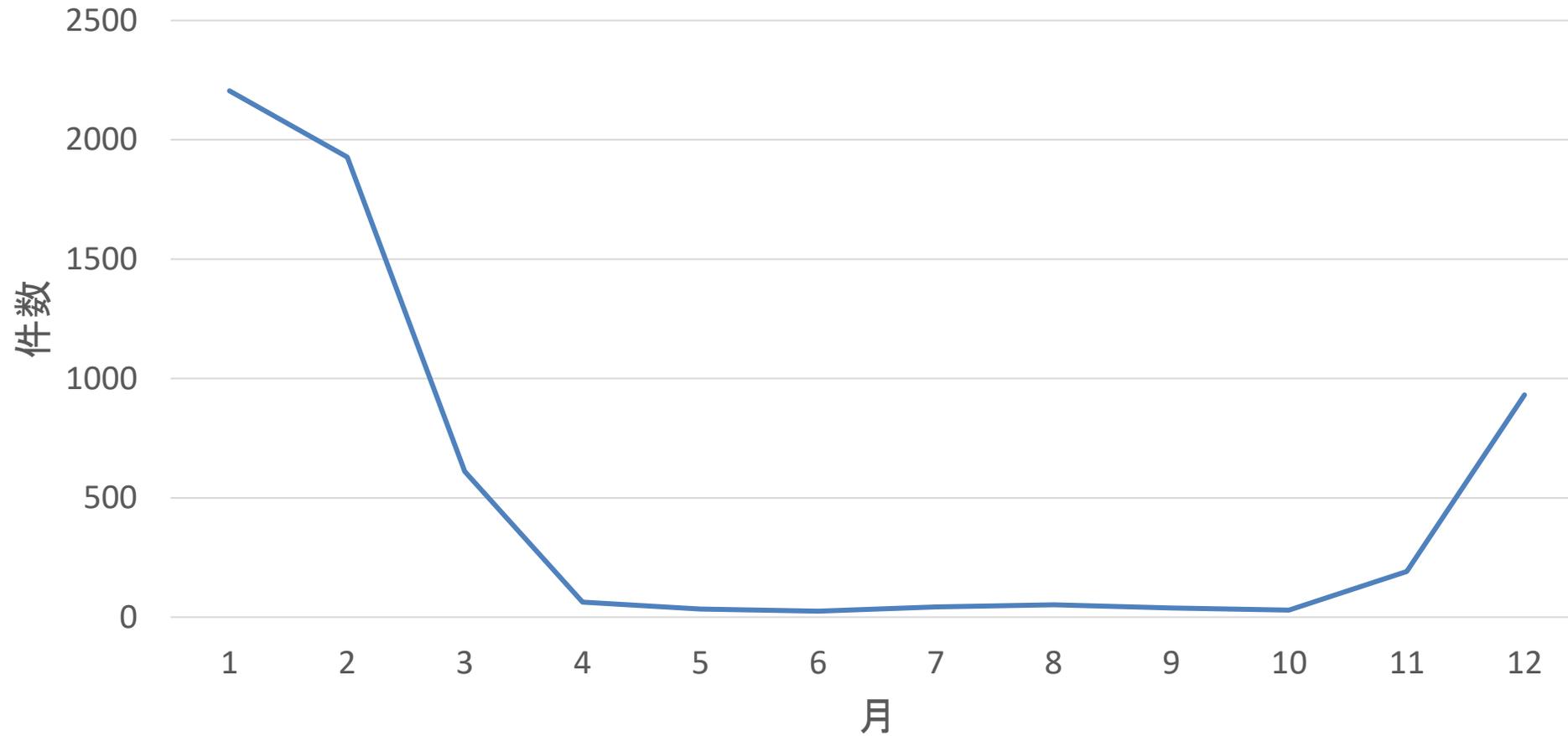


※ 夏季（4月から10月）と冬季（11月から3月）で明らかな違いがある。

# h18-h29月別転倒災害(滑り)発生状況

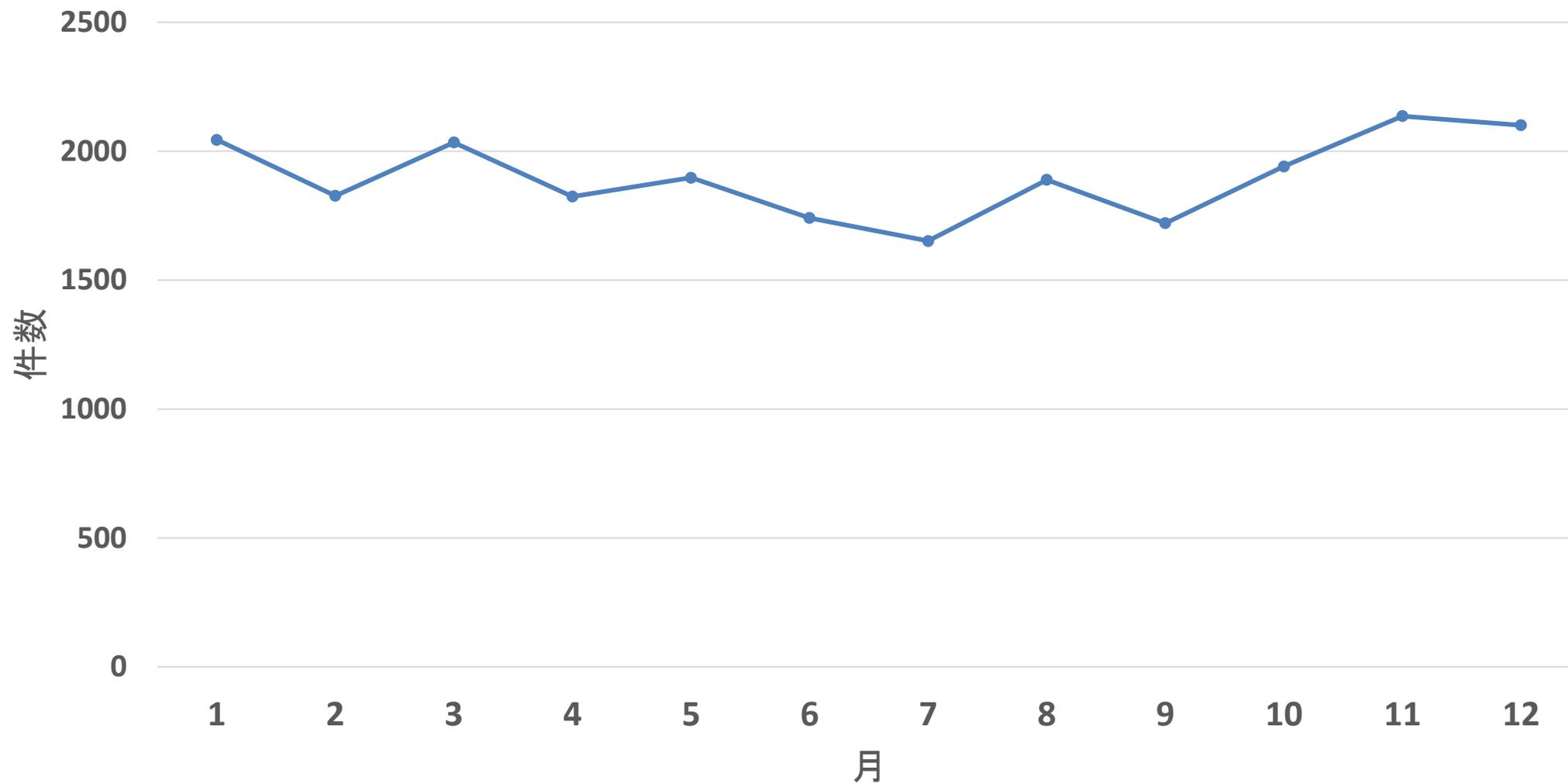


## 滑りのうち雪・氷等の影響



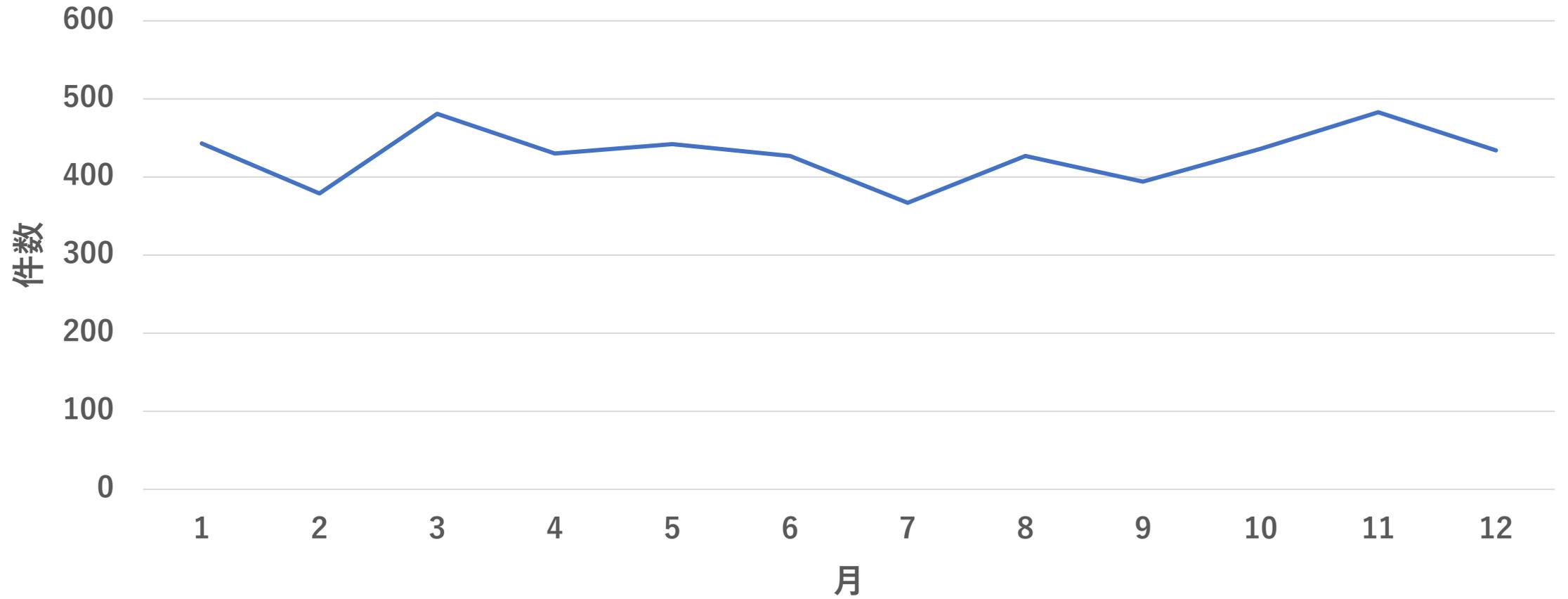
※ 「災害状況」にフィルターをかけ、「雪、氷、アイスバーン」に係るものを抽出した。

## h18-h29転倒災害発生状況(つまずき)



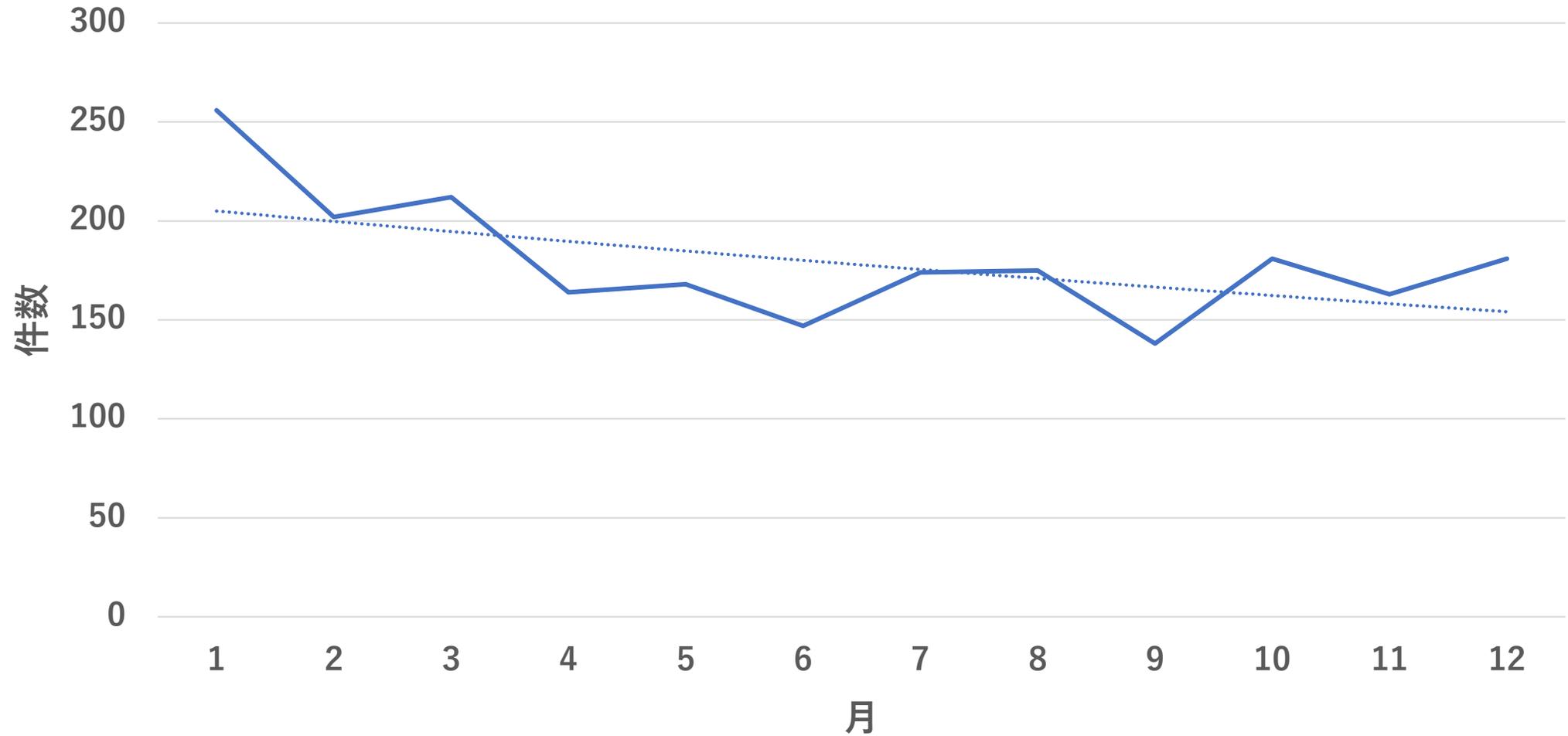
※ 季節的要因は少ない。

## 月別踏み外し災害発生状況



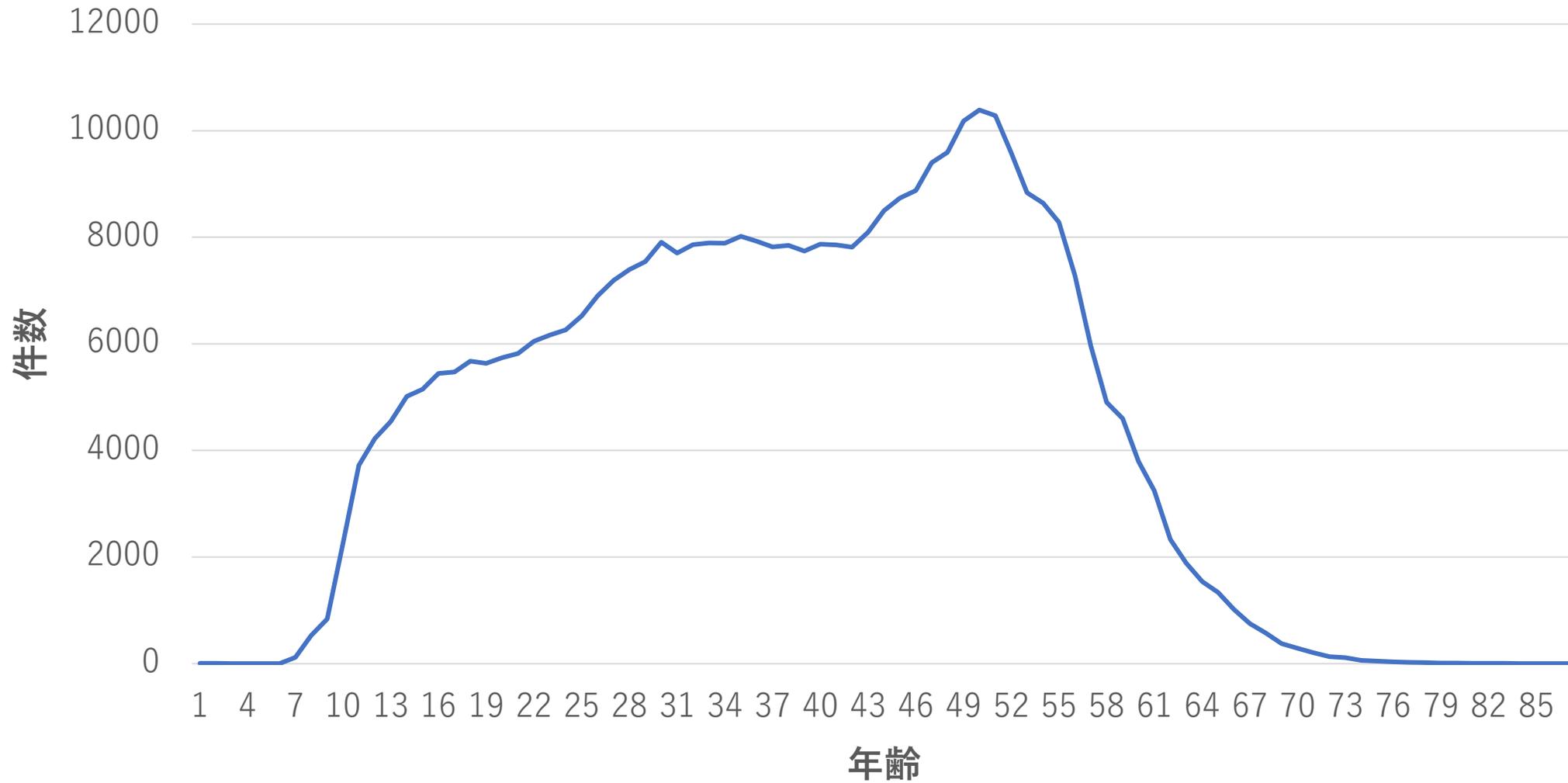
※ 季節的要因は少ない。

## 転倒災害（バイク等）の発生状況

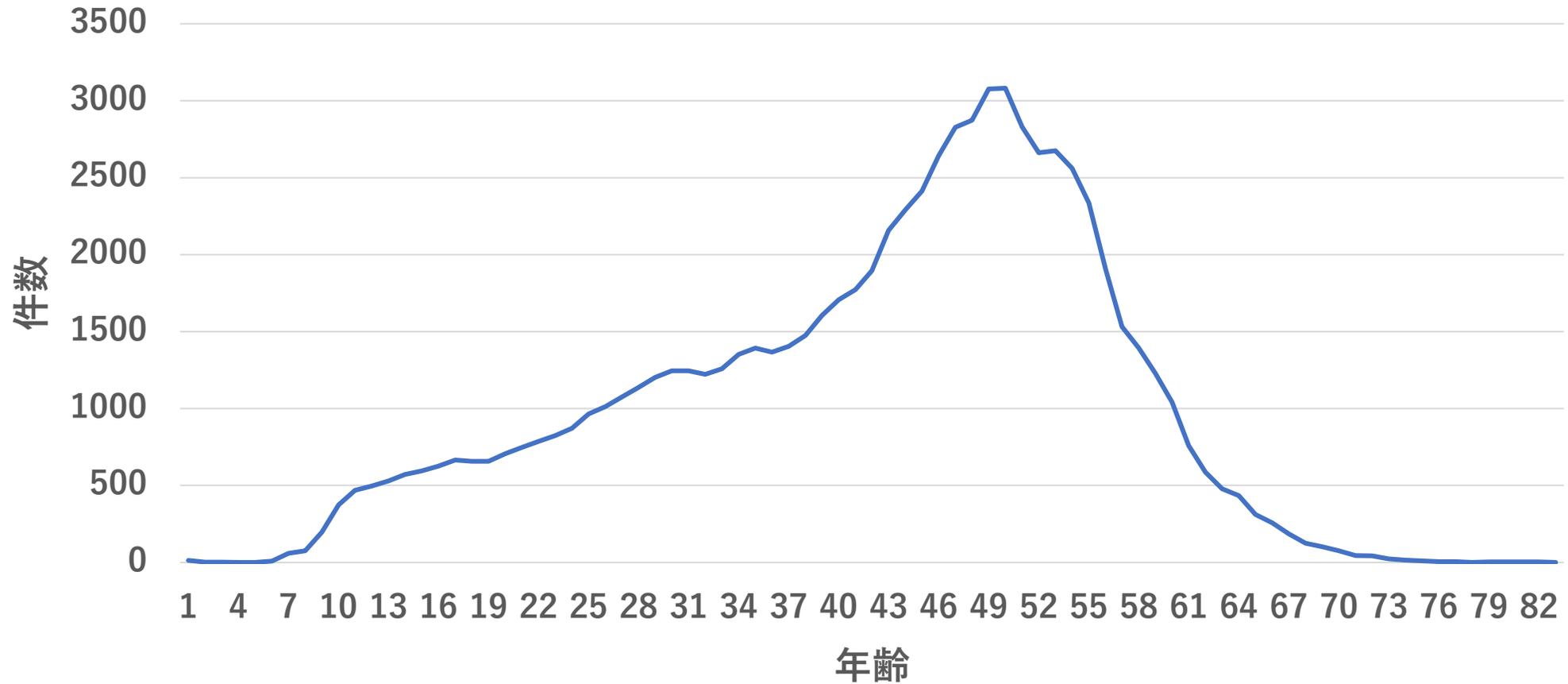


※ 季節的要因について、検討の必要がある。

# 全災害・年齢別



## 年齢別・転倒災害



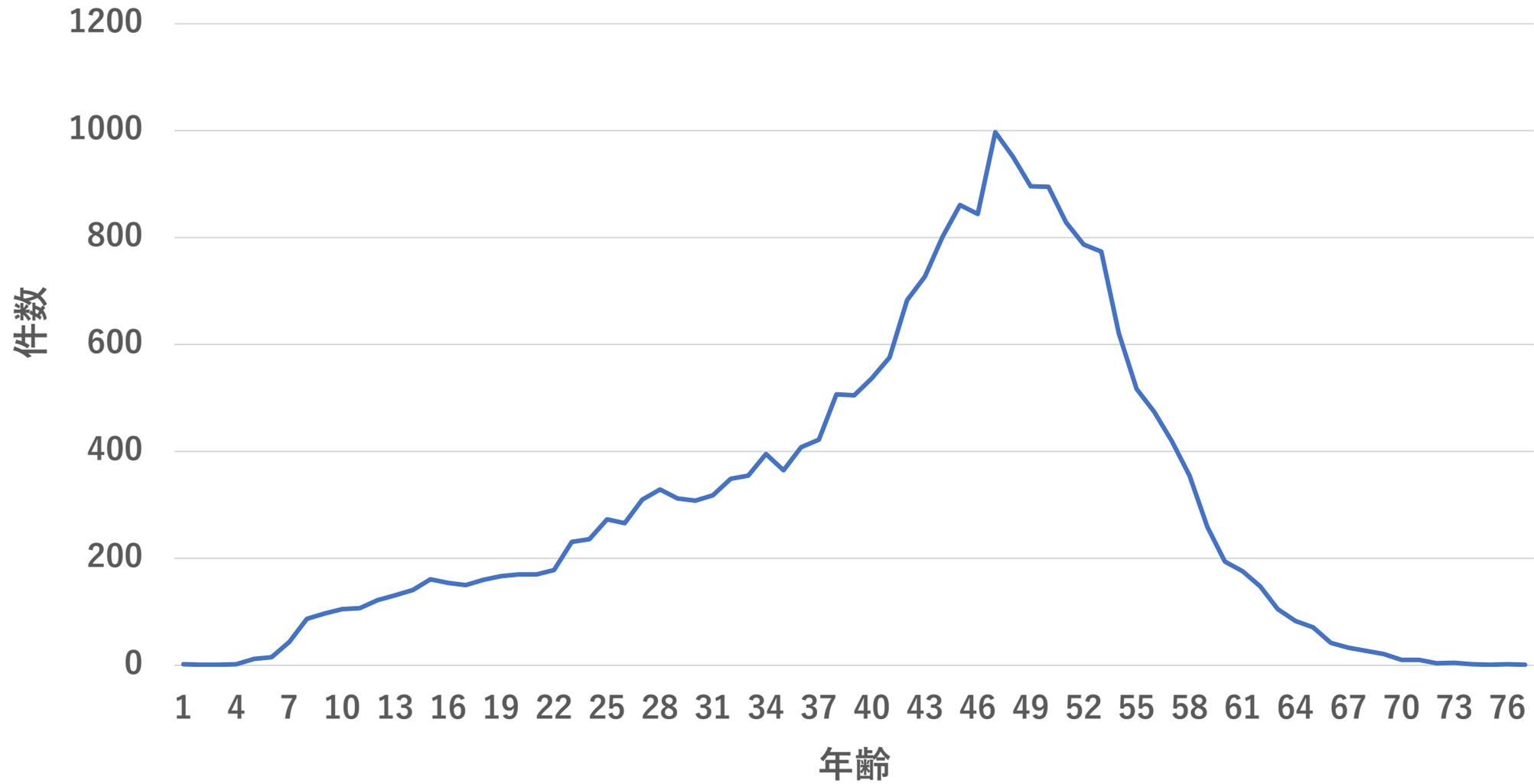
※ 全災害の年齢分布に比較して、40歳未満の件数が少なく、50歳以上が多い。

## 年齢別滑り災害



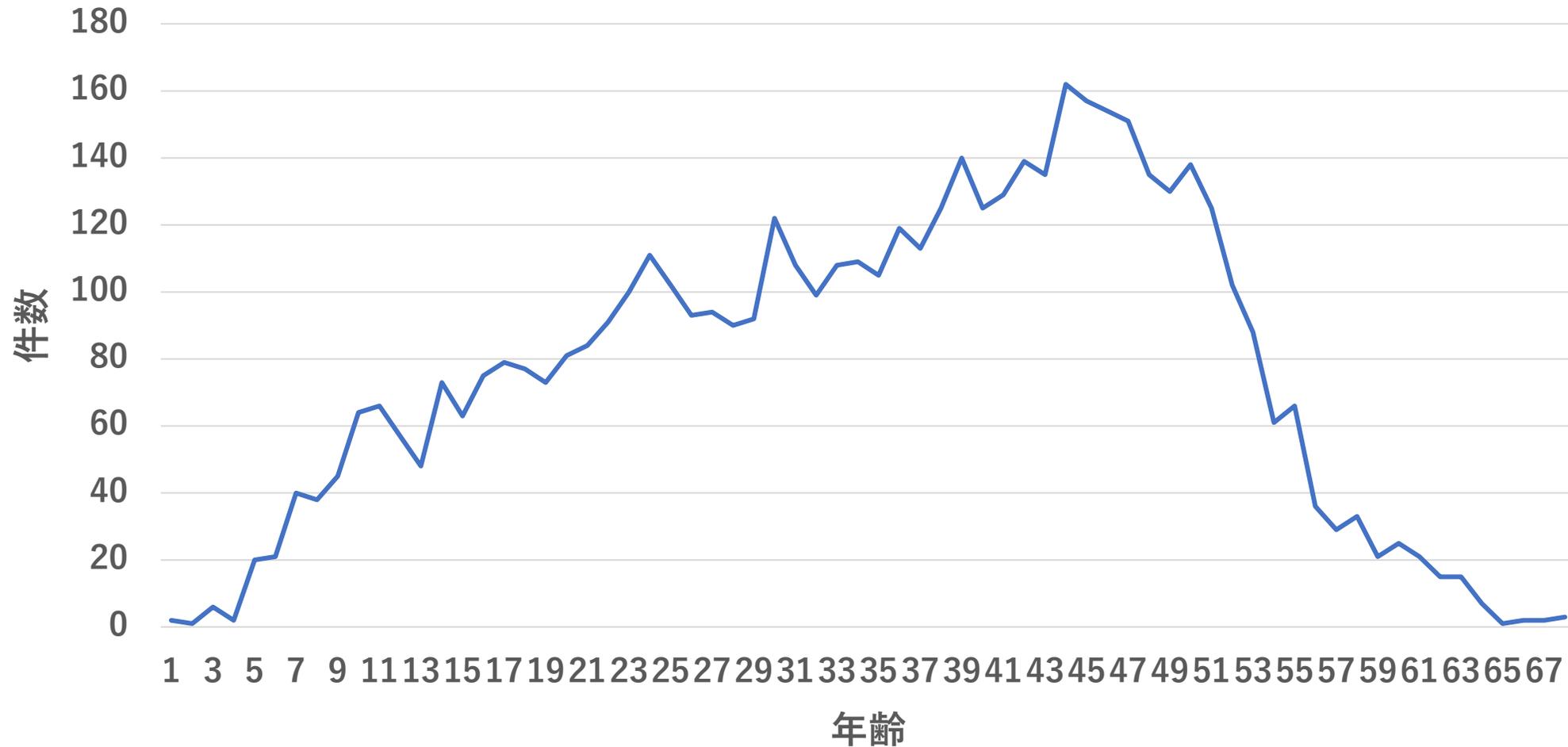
※ 傾向は「転倒災害」と同じ。

## つまずき災害・年齢別



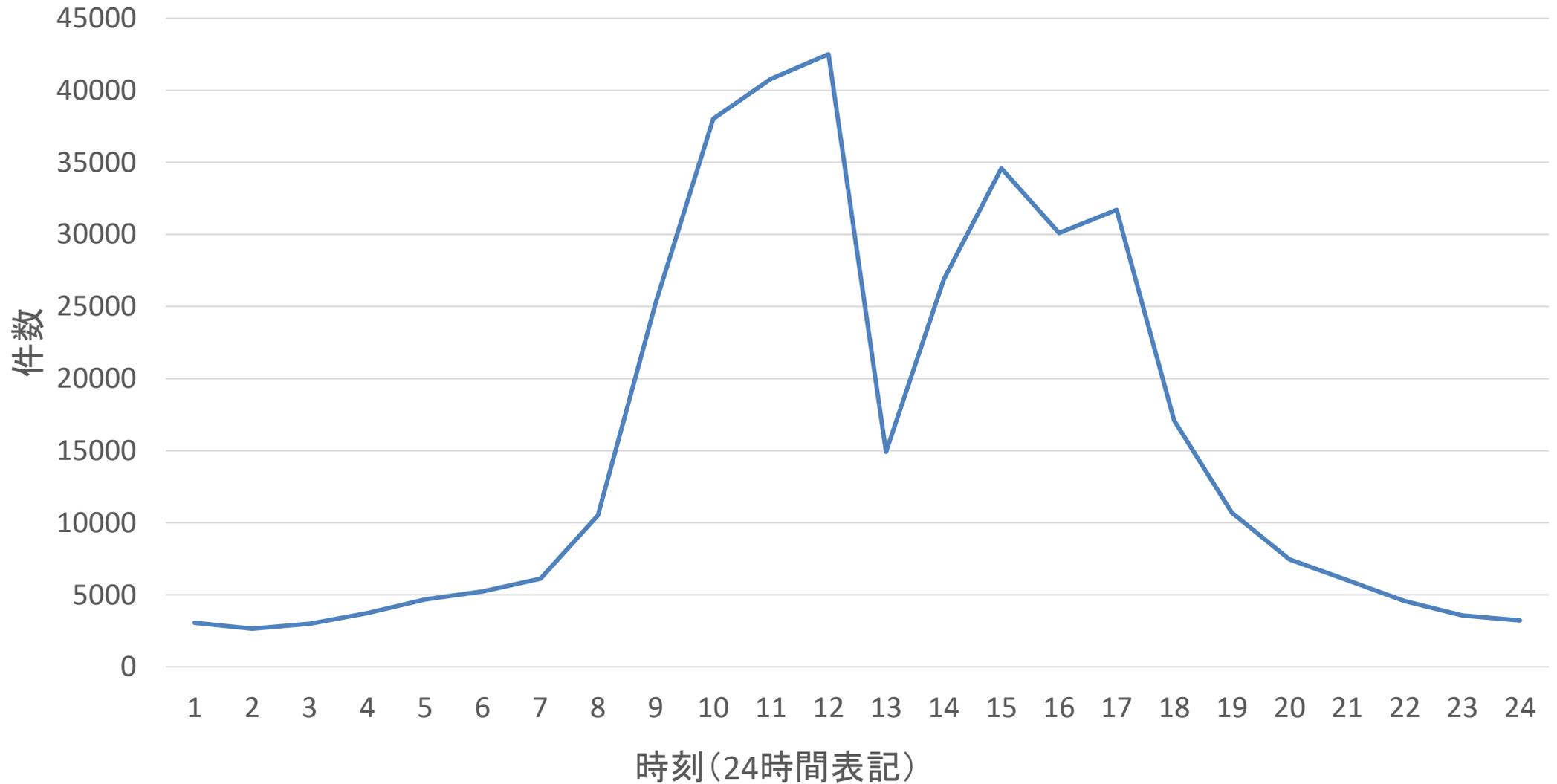
※ 傾向は「転倒災害」と同じ。

## 年齢別・踏み外し災害



※ 他の転倒災害と異なり、年齢による違いが少ない。

# 全災害・時間別

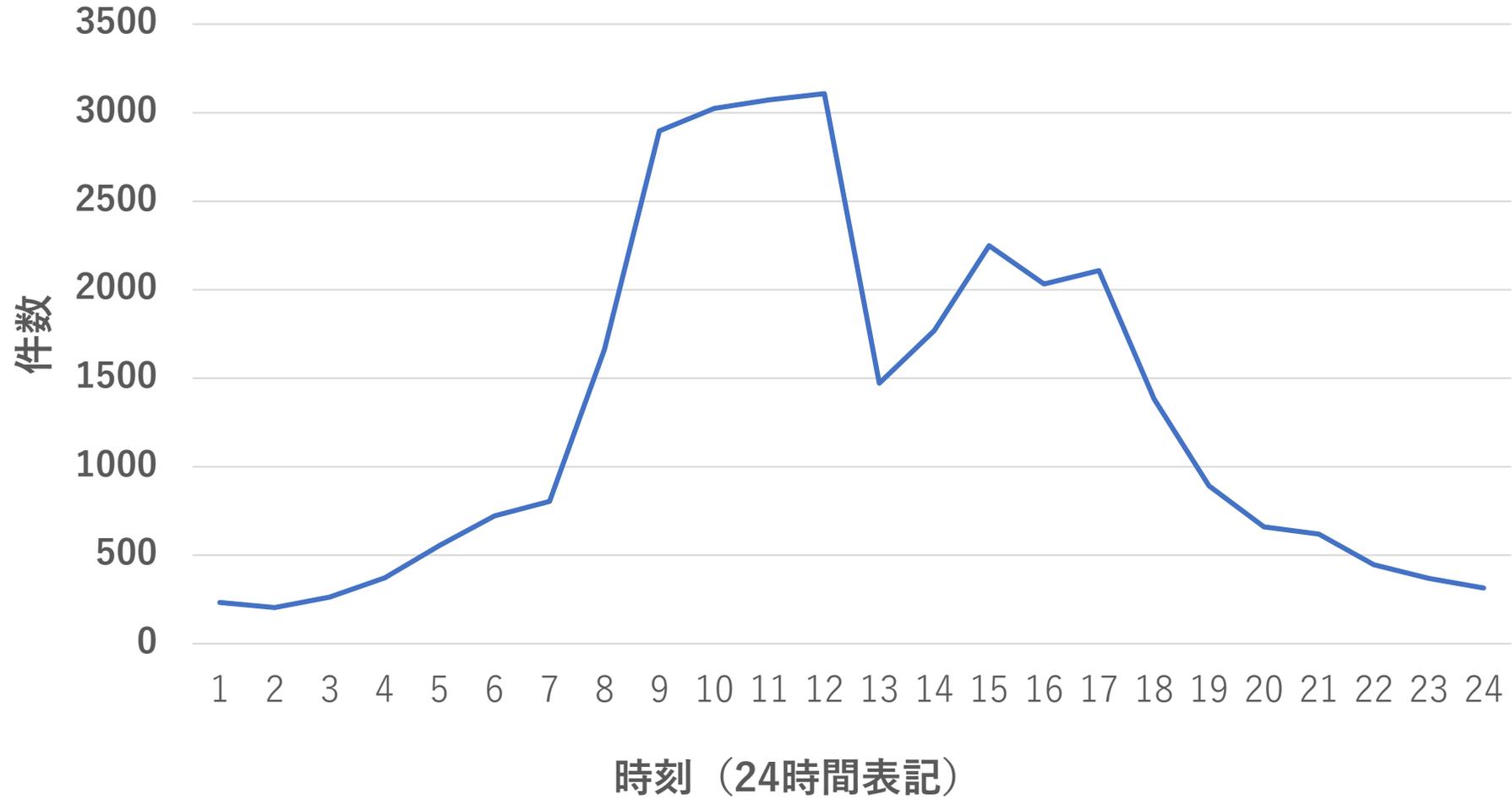


## 転倒災害の時間別

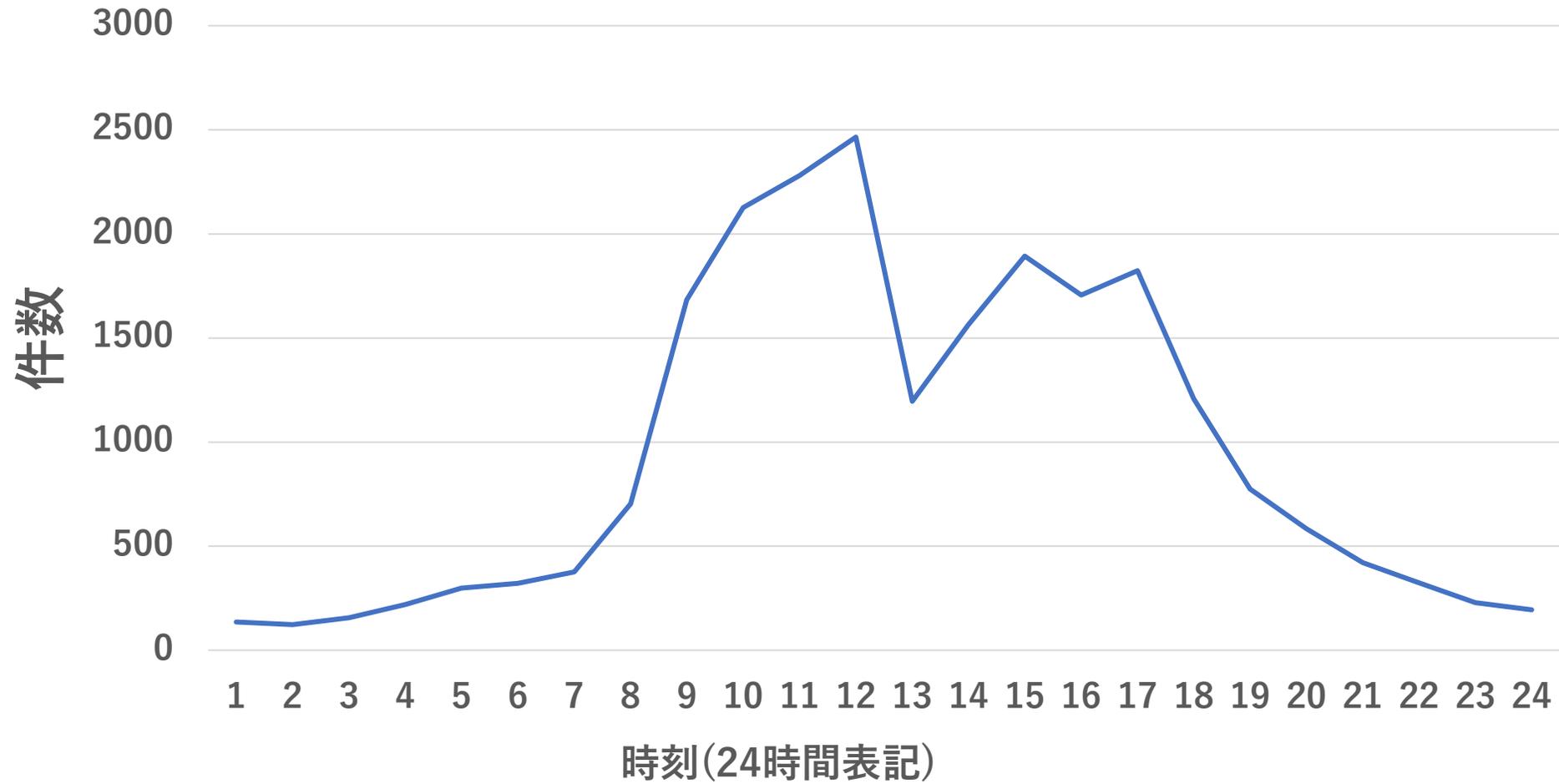


※ 全災害に比較して、顕著な違いは認められない。

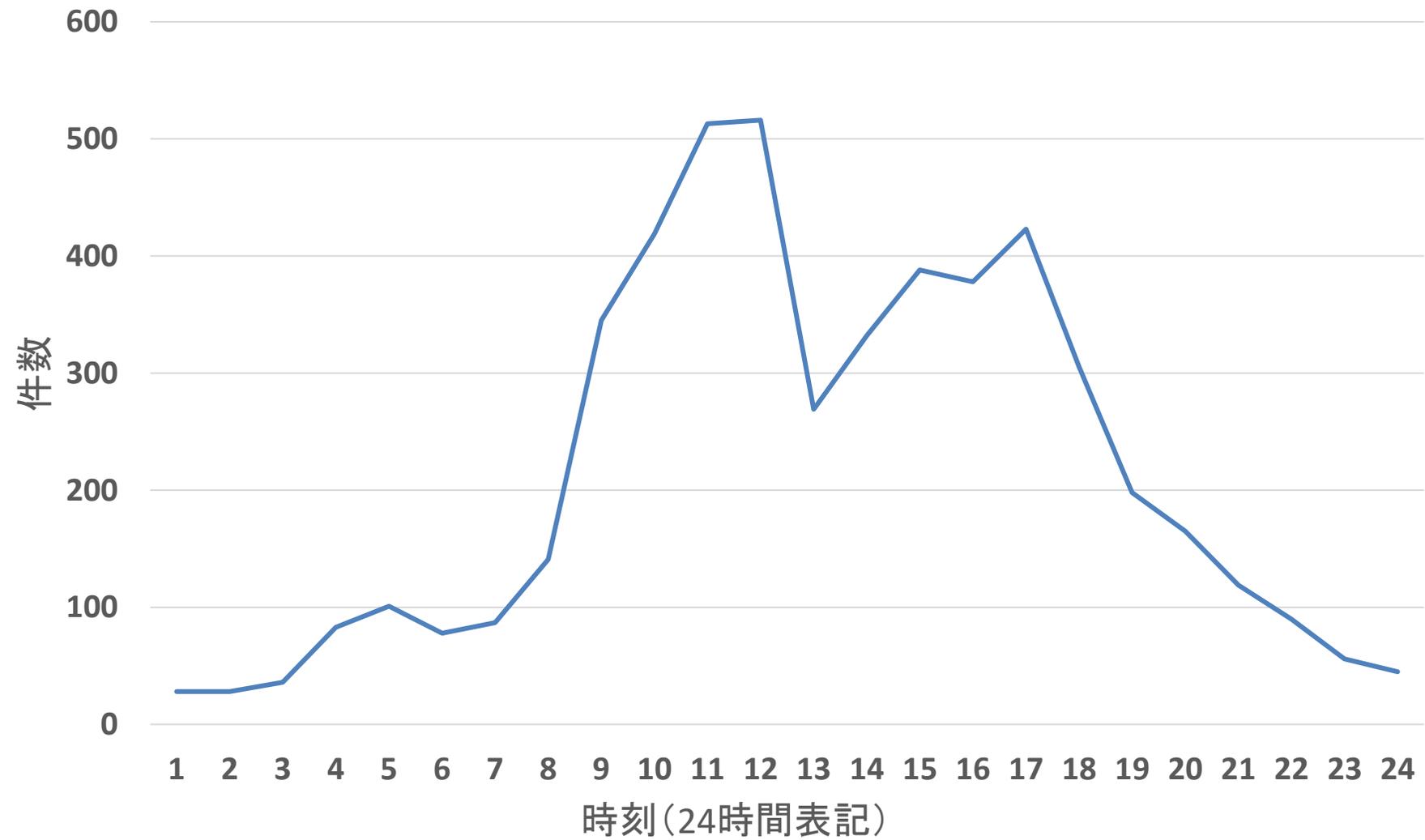
## 滑り災害・時間別



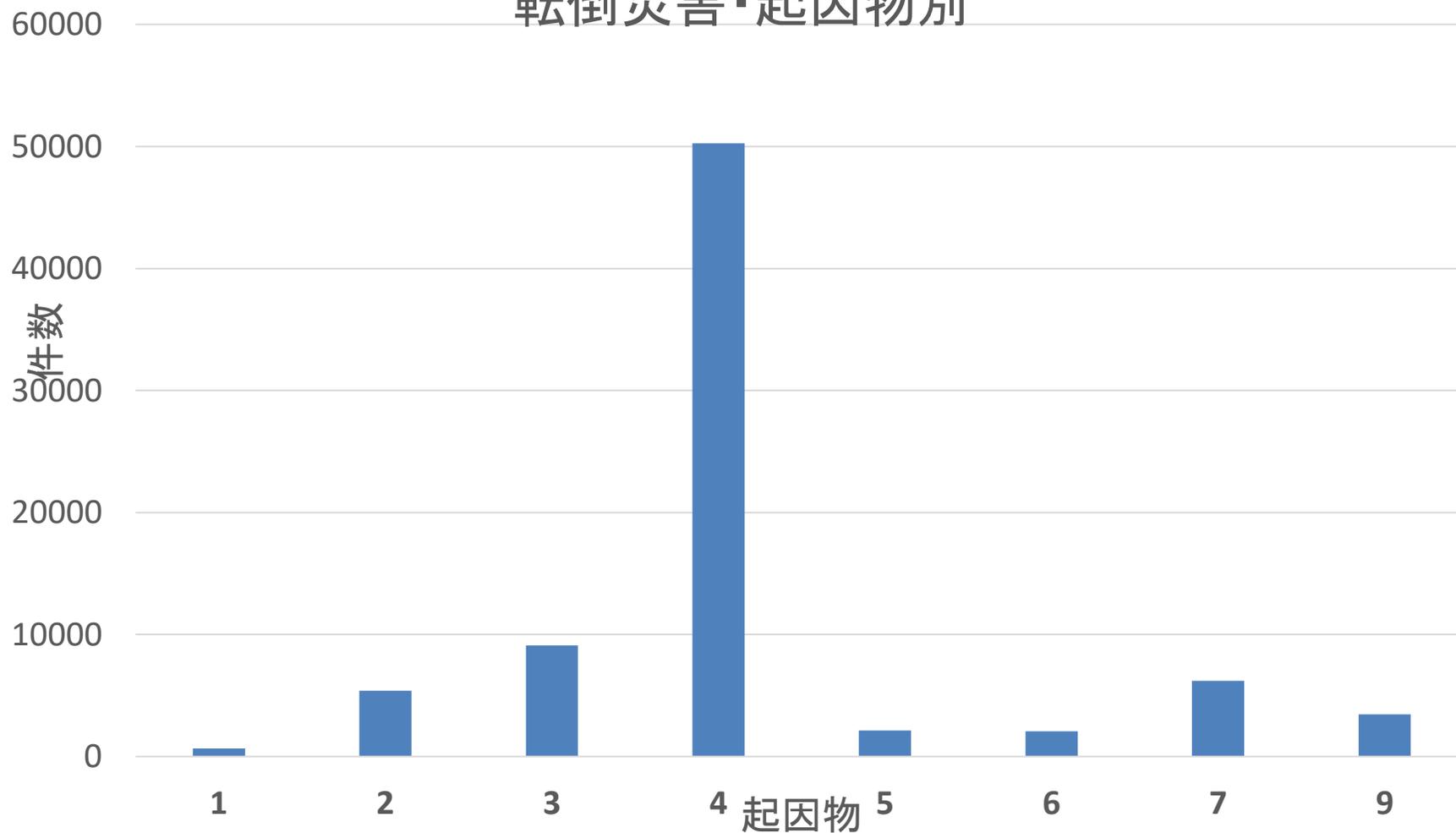
## つまずき災害・時間推移



# 踏み外し災害・時間推移

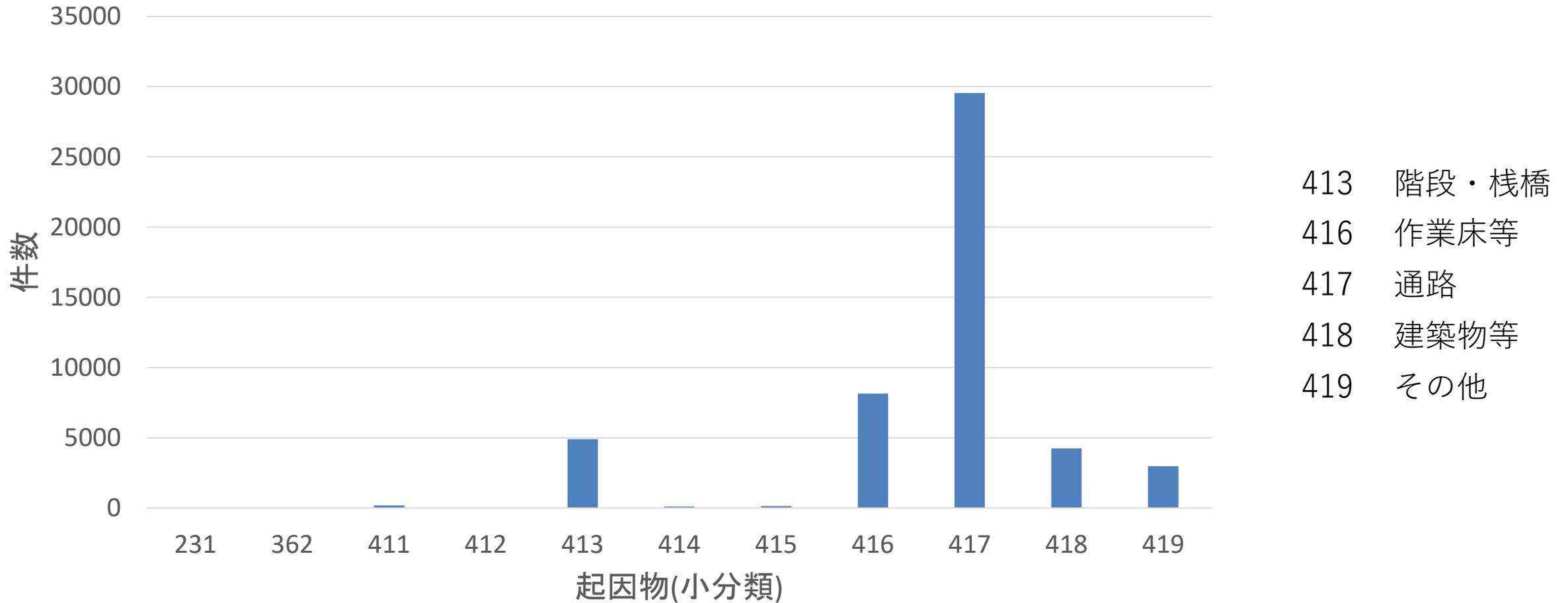


## 転倒災害・起因物別



1	動力機械
2	もの上げ装置
3	その他の装置
4	仮設物建築物
5	物質・材料
6	荷
7	環境等
9	その他

## 転倒災害・起因物小分類別



※ 転倒災害の多くが通路で発生している。

# 分析の結果わかったこと

- 1 転倒災害は小幅な増加傾向にある。
- 2 業種では製造業と商業が際立っている。
- 3 製造業では、その他の食料品製造業（総菜、弁当等製造業など）が多い。
- 4 商業では、その他の小売業（食品スーパー等）が多い。
- 5 「滑り」については、季節的要因（雪、氷等）の影響が大きい。
- 6 つまずき、踏み外しについては、季節的要因は認められない。

7 「滑り」「つまずき」については、若年者の件数は少なく、50歳以上の件数が多い。

8 発生時間については、特段の傾向は認められない。

# 分析の過程で気づいたこと

- 1 転倒のうち、つまずきについては、次のことが認められる。
  - ① つまずきは小さな突起、くぼみで発生することが多い。
  - ② しかし、台車、段ボール箱など、通常であれば視界に入っているものにつまづく場合もある。



次のように考えた

# 仮説

1 静止状態での視野は左右、上下とも180°程度あるが、歩行時等の視野はそれより狭くなるのではないか。

2 人間は見ようと思っている（見たいと思っている）物しか見えないのではないか。



通路を歩くこと自体が目的ではないので、歩行中は周囲に対する注意が散漫になっているのではないか。

# 災害状況の記載で気になったこと。

1 数は少ないが、「労働者の不注意により」という記載が認められる。

➡ 「災害は会社の責任ではない」と言いたいのであろうが、その考えでは、労働災害は減らせない。

2 「雪に足をとられ」「氷に足をとられ」「段差に足をとられ」等の記載が多数認められる。

➡ 雪や氷が労働者の「足をとる」ことはない。1と同様。

# 転倒災害防止対策（案）

発生状況を見ると、滑り、つまずき、踏み外しは区分が曖昧で、いずれに該当するか明確でない場合が多い。

対策で共通するものが多いので、これらを併せて検討することが必要と考える。

- 1 原因となる状況の調査
- 2 段差の解消、滑りの原因となる水、氷等の除去
- 3 従業員教育の実施

最後までお聞き頂き  
有り難うございました。

終わり